

市民・事業者への意識調査

目次

1-1 意識調査の概要.....	1
1-2 市民の環境意識調査結果.....	3
1-3 意識調査結果のまとめ.....	32

令和2年1月

豊橋市

市民・事業者への意識調査

1-1 意識調査の概要

(1) 調査の概要

1) 調査の目的

本調査は、第2次豊橋市地球温暖化対策地域推進計画の策定にあたり、市民や市内で事業活動を営む事業所の地球温暖化対策に対する考え方、日常生活や事業活動における取組状況、行政に望む施策などを明らかにし、計画検討に各主体の視点を反映させるための基礎資料とすることを目的として行いました。

2) 調査方法

市民	市で無作為抽出した市内在住の市民に、郵送により調査票を配布・回収
事業所	市で無作為抽出した市内の事業所に、郵送により調査票を配布・回収

3) 調査期間

市民 : 令和元年9月2日(月)～9月27日(金)

事業所: 令和元年12月19日(木)～令和2年1月17日(金)

4) 調査対象及び回収結果

区分	調査対象者数	有効回収数	有効回収率
市民	1,500人	513人	34.2%
事業所	400社	125社 [※]	31.3% [※]

※1月17日時点

(2) 設問の概要及び分析項目

1) 市民

分類	設問概要
1) 基本的事項について	回答者の属性
2) 地球温暖化に対する意識について	地球温暖化への関心、関心がない場合の理由
	地球温暖化の情報の入手方法
	地球温暖化対策を積極的に進めるための情報
	地域で地球温暖化が進んで切ると感じるか、感じる場合の理由
	地球温暖化の影響で不安に感じること
	地球温暖化を防止するための対策と生活内容の関係
3) 地球温暖化対策について	地球温暖化防止に役立つ取り組みの実施
	日常の取り組みを実施するうえで障害に感じていること
	省エネルギー・新エネルギー設備の導入状況
	ご家庭での自動車の使用状況
	自動車から公共交通機関へ切り替え、その条件
	地球温暖化防止に向けて豊橋市に期待する対策
	地球温暖化を防止するために参加したことがある地域での取り組み、参加したことが無い場合の理由

(3) 傾向の記載方法について

アンケート結果及び分析結果について、下記の方法で記載する。

- 回答結果の内容
- ☆ アンケート結果の内容を受けた課題

1-2 市民の環境意識調査結果

1-2-1 基本的事項について

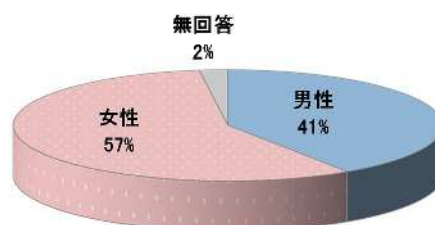
問1 あなたご自身のことについてお伺いします。

【有効回答 490~506 人、無回答・無効 7~23 人】

(1) 回答者の属性

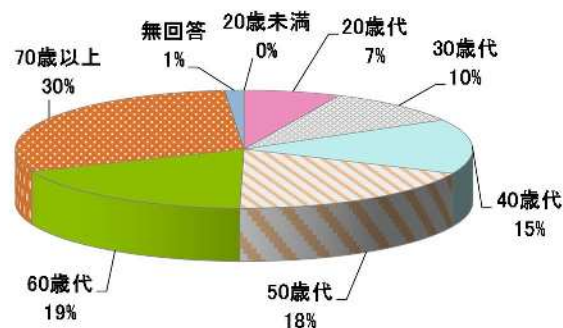
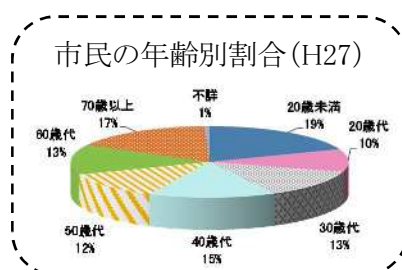
- 1) 市民
- (i) 性別

女性の方が大きい割合を占めています。



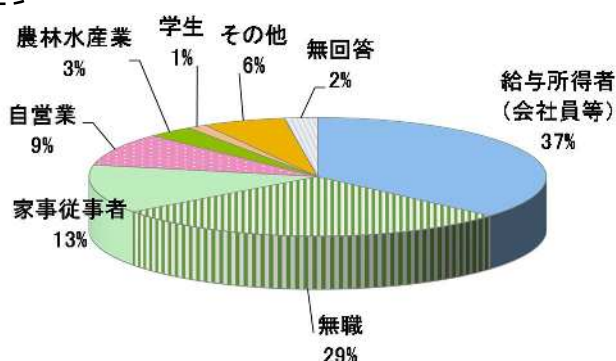
- (ii) 年齢

50 歳以上の方から多く回答をいただき、67%を占めています。



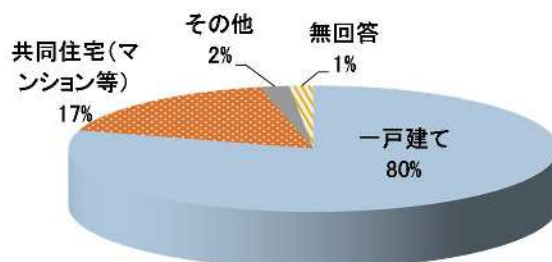
- (iii) 職業

給与所得者が占める割合が最も多く、37%、次いで無職が 29%、家事従事者が 13%となりました。無職は高齢による退職者と推測されます。



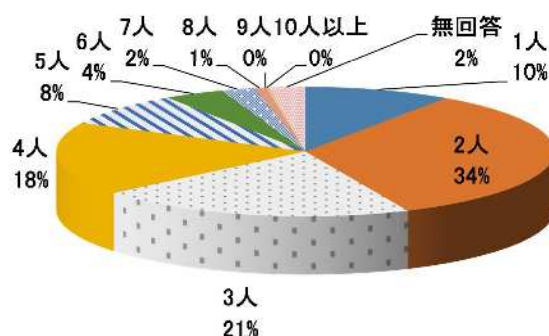
- (iv) 住宅の種類

一戸建てが最も多く 80%を占めています。



- (v) 家族の人数

家族の人数 2 人が最も多く 34%となっています。5 人以上の家族は全体の 15%となっており、夫婦、または核家族の世帯からの回答が多いと推測されます。



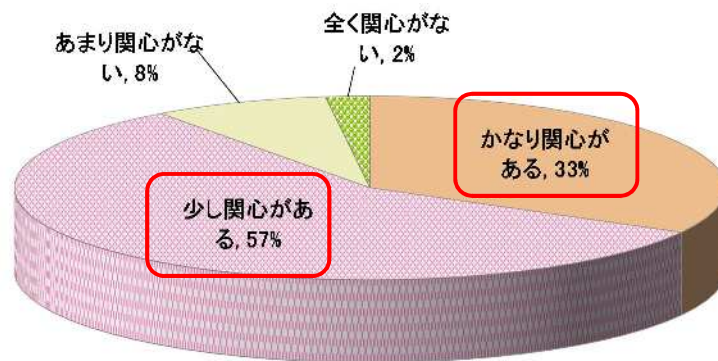
1-2-2 地球温暖化に対する意識について

問2 あなたは「地球温暖化」に関心をお持ちですか。

【有効回答 499 人、無回答・無効 14 人】

<全体傾向>

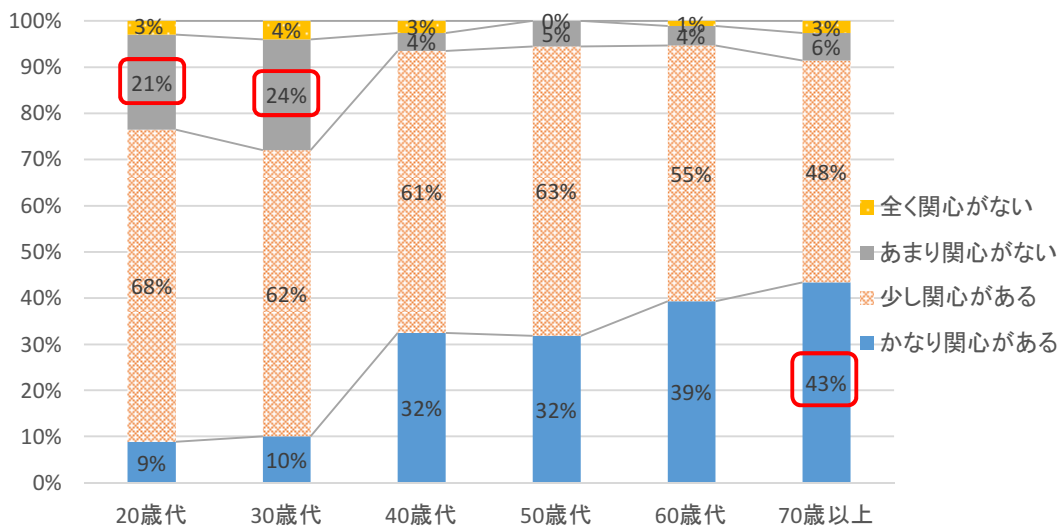
- 「かなり関心がある」「少し関心がある」と考える市民が 90%を占め、多くの市民が地球温暖化に対して関心を持っていることが伺えます。



<年齢別傾向>

- 年代別に見ると、「かなり関心がある」と回答した割合が最も多いのは 70 歳以上で、40 歳代以上はどの年代も 90%以上が、「かなり関心がある」「少し関心がある」と回答しています。また、20 歳代、30 歳代は関心が無いと回答した割合が比較的多い結果となりました。

☆ 特に若い世代に対して関心を喚起する取組が必要です。



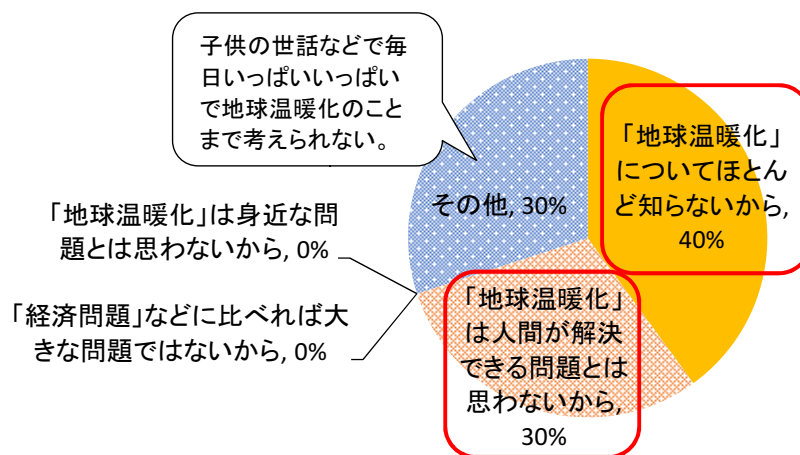
問3 問2で「4. まったく関心がない」と回答された方にお聞きします。

まったく関心がない理由として、あてはまるもの1つに○を付けて下さい。

【有効回答 10 人、無回答・無効 503 人】

<全体傾向>

- 全く関心がない理由として、「ほとんど知らないから」と回答した人が 40%、「人間が解決できる問題とは思わない」と回答した人が 30%となりました。
- ☆ 地球温暖化に関する基本的な知識の普及啓発や、温暖化防止対策の効果の周知を促進することが求められます。

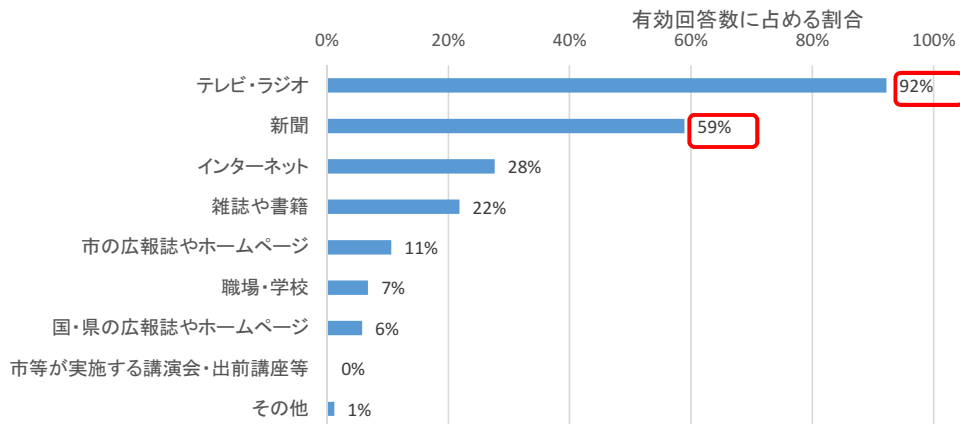


問 4 地球温暖化に関する情報を、主にどこから得ていますか。あてはまるものすべてに○を付けて下さい。

【有効回答 499、無回答・無効 14 人】

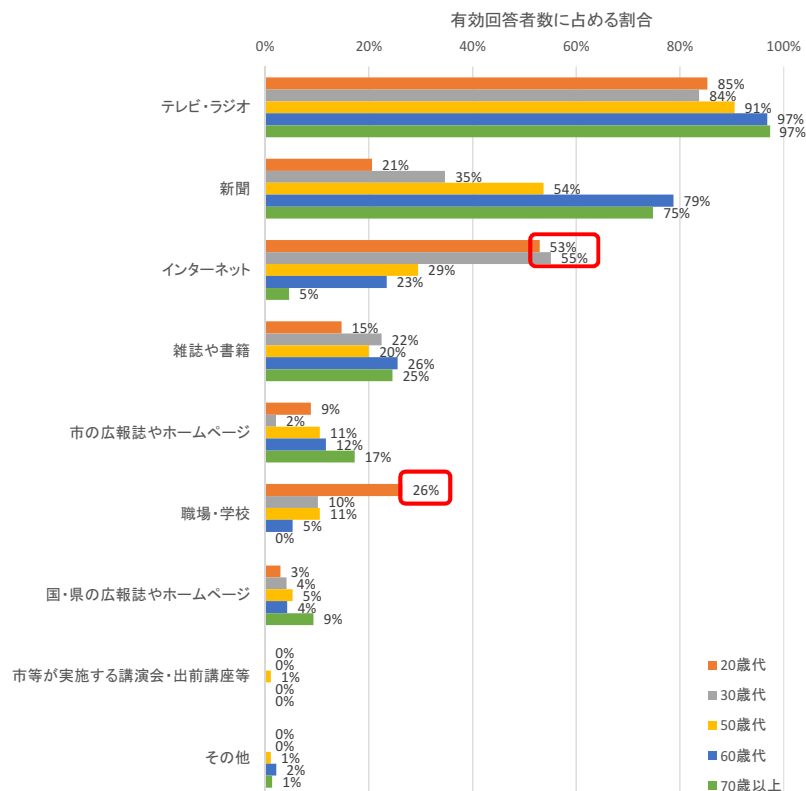
<全体傾向>

- 地球温暖化に関する情報を主に「テレビ・ラジオ」から得ている人が最も多く、92%を占めています。また、半数以上の方は「新聞」からも情報を得ています。



<年代別傾向>

- 年代別では、若い世代ほど「インターネット」から情報を得ていることがわかります。また、20 歳代は「職場・学校」からも情報を得ています。
- ☆ 若い世代に対する情報提供の手段として、インターネットや、学校・職場における情報提供が有効であることが示唆されます。

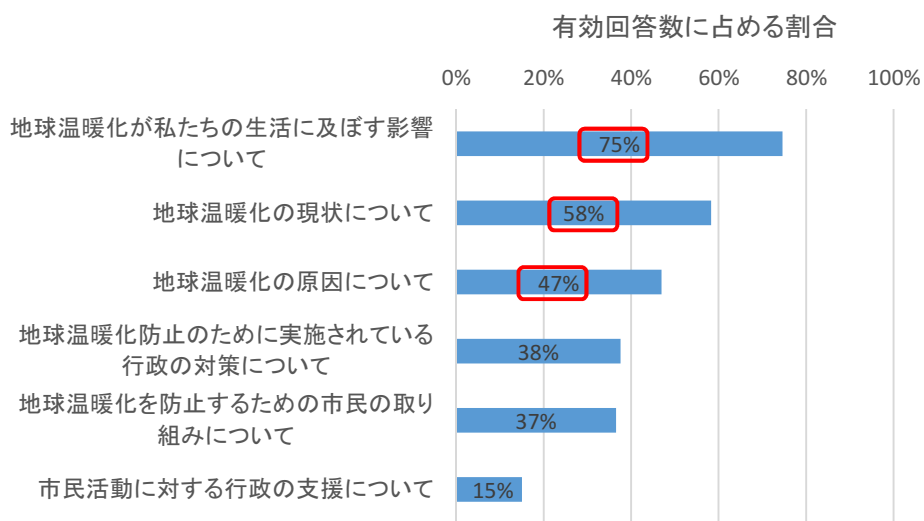


問 5 あなたが今後、地球温暖化対策に関する取組みをさらに積極的に進めるためには、どのような情報があればいいと思いますか。あてはまるものを3つまで選び、○を付けてください。

【有効回答 492 人、無回答・無効 21 人】

<全体傾向>

- 「生活に及ぼす影響」が最も多く 75%となりました。次いで「地球温暖化の現状」「地球温暖化の原因」となっています。
- ☆ 地球温暖化に関する基礎的な知識のほか、自分自身の生活への影響について理解を促すことで取組促進につながると考えられます。

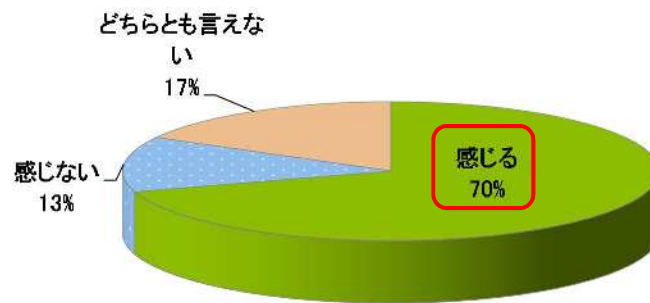


問6 現在、お住まいの地域で地球温暖化が進んでいると感じますか。

【有効回答 489 人、無回答・無効 24 人】

<全体傾向>

- 地球温暖化が進んでいると「感じる」割合が最も多く70%となりました。



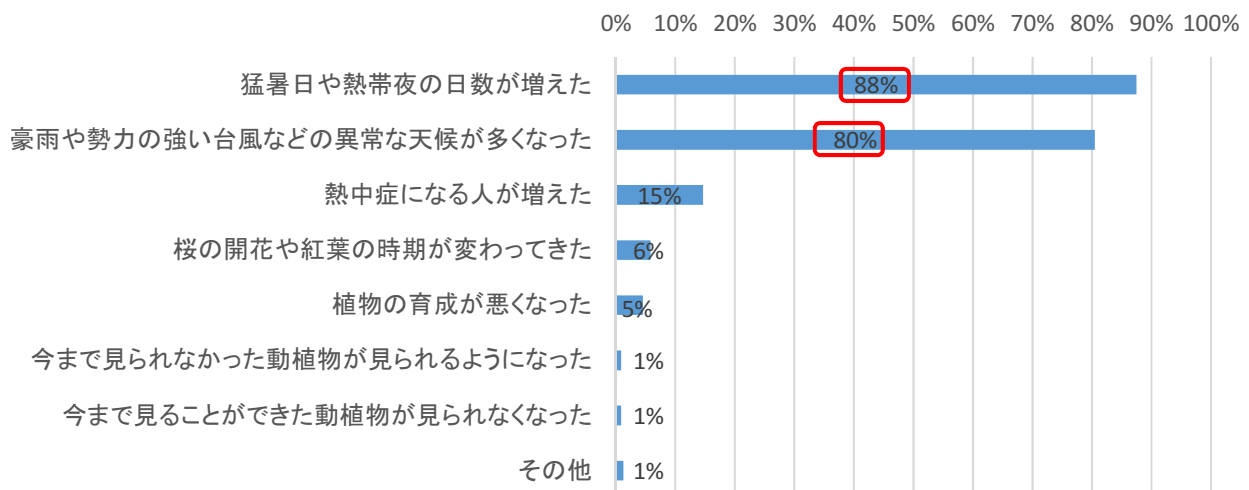
問7 問6で「1. 感じる」と回答された方にお聞きします。その理由として、あてはまるもの2つまでに○を付けて下さい。

【有効回答 328 人、無回答・無効・非該当 185】

<全体傾向>

- 「猛暑日や熱帯夜が増えた」「異常な天候が多くなった」と感じている人が80%以上となりました。

有効回答数に占める割合

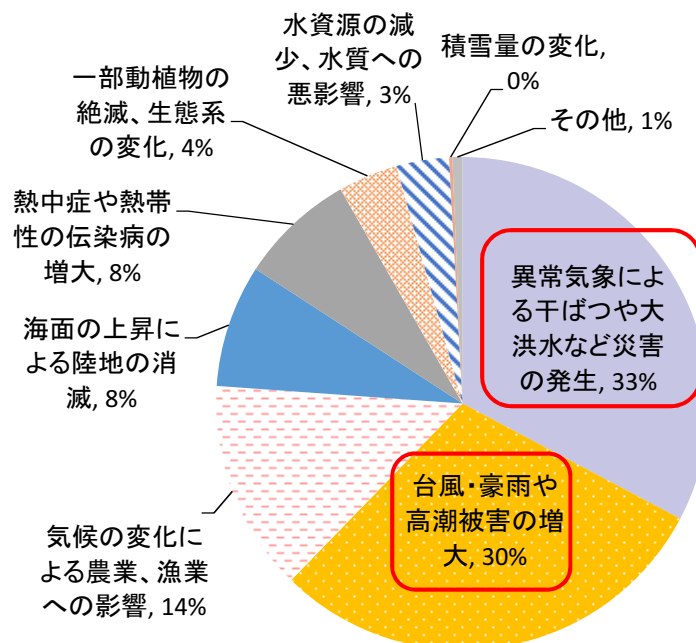


問 8 あなたが地球温暖化の影響で最も不安に感じることは何ですか。あてはまるもの1つに○を付けて下さい。

【有効回答 461 人、無回答・無効 52 人】

<全体傾向>

- 「異常気象による干ばつや大洪水などの災害」が最も多く 33%、次いで「台風・豪雨や高潮被害の増大」が 30%となっています。
- 市民の生活に大きな影響のある事象に関して特に不安が大きいと考えられます。

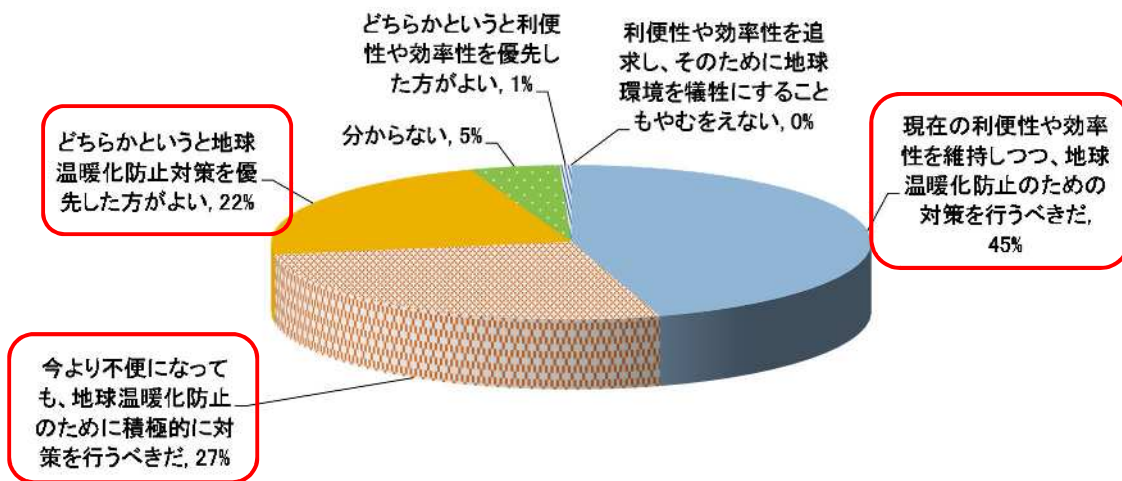


問 9 地球温暖化を防止するための様々な対策と生活内容との関係について、あなたのお考えにもっとも近いもの 1 つに○を付けて下さい。

【有効回答 493 人、無回答・無効 20 人】

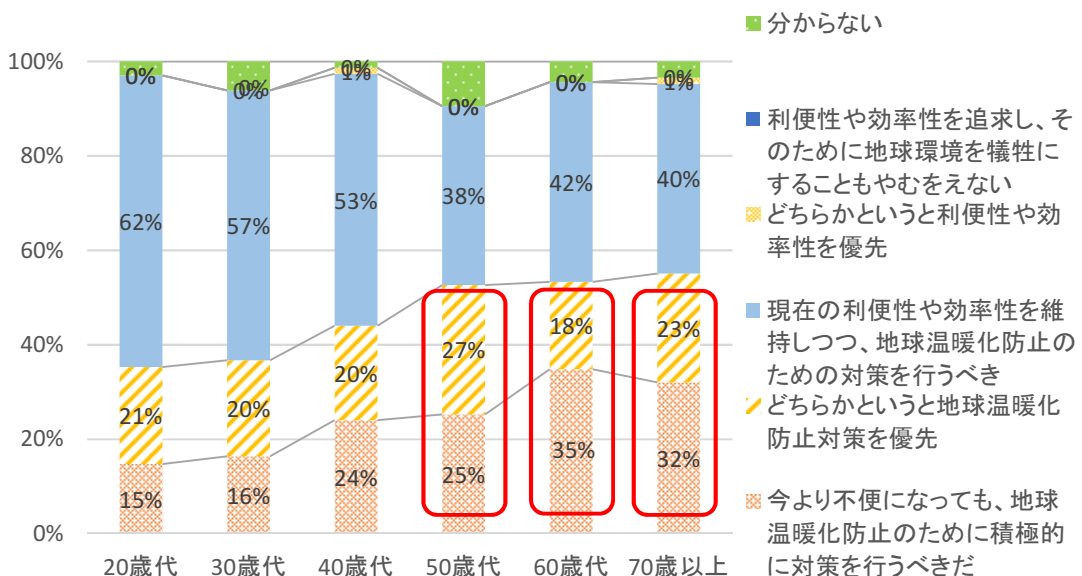
<全体傾向>

- 「現在の利便性や効率性を維持しつつ対策を行うべき」との回答が 45%となりました。
- また、「今より不便になっても対策を行うべき」「どちらかという対策を優先した方がよい」がそれぞれ 27%、22%となっています。地球温暖化対策に積極的な市民も約 5 割を占めており、拮抗しています。



<年代別傾向>

- 地球温暖化を防止するための対策に最も積極的なのは 70 歳以上です。次いで 60 歳代、50 歳代となっており、年代が高くなるにつれて積極的になっています。

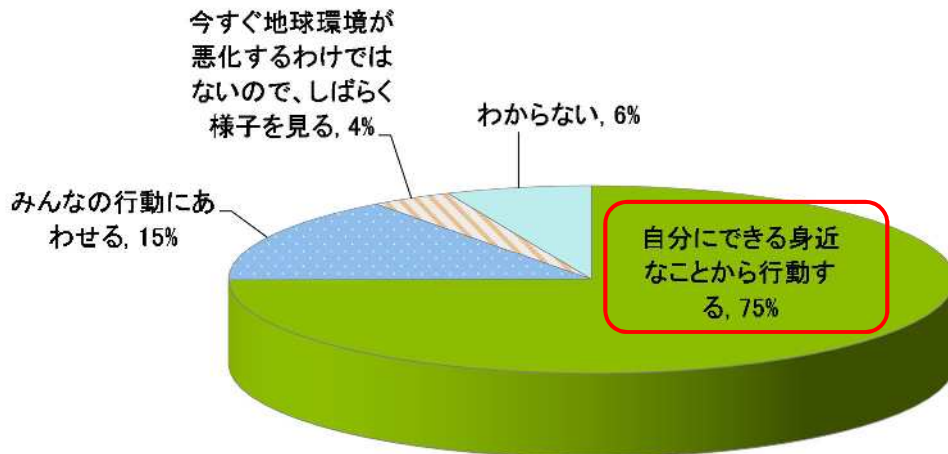


問 10 地球温暖化を防止するための行動について、あなたのお考えにもっとも近いもの1つに○を付けて下さい。

【有効回答 494 人、無回答・無効 19 人】

<全体傾向>

- 「自分にできる身近なことから行動する」と回答した割合が最も大きく75%となり、地球温暖化防止に向けて、市民の多くが積極的な姿勢を示しています。



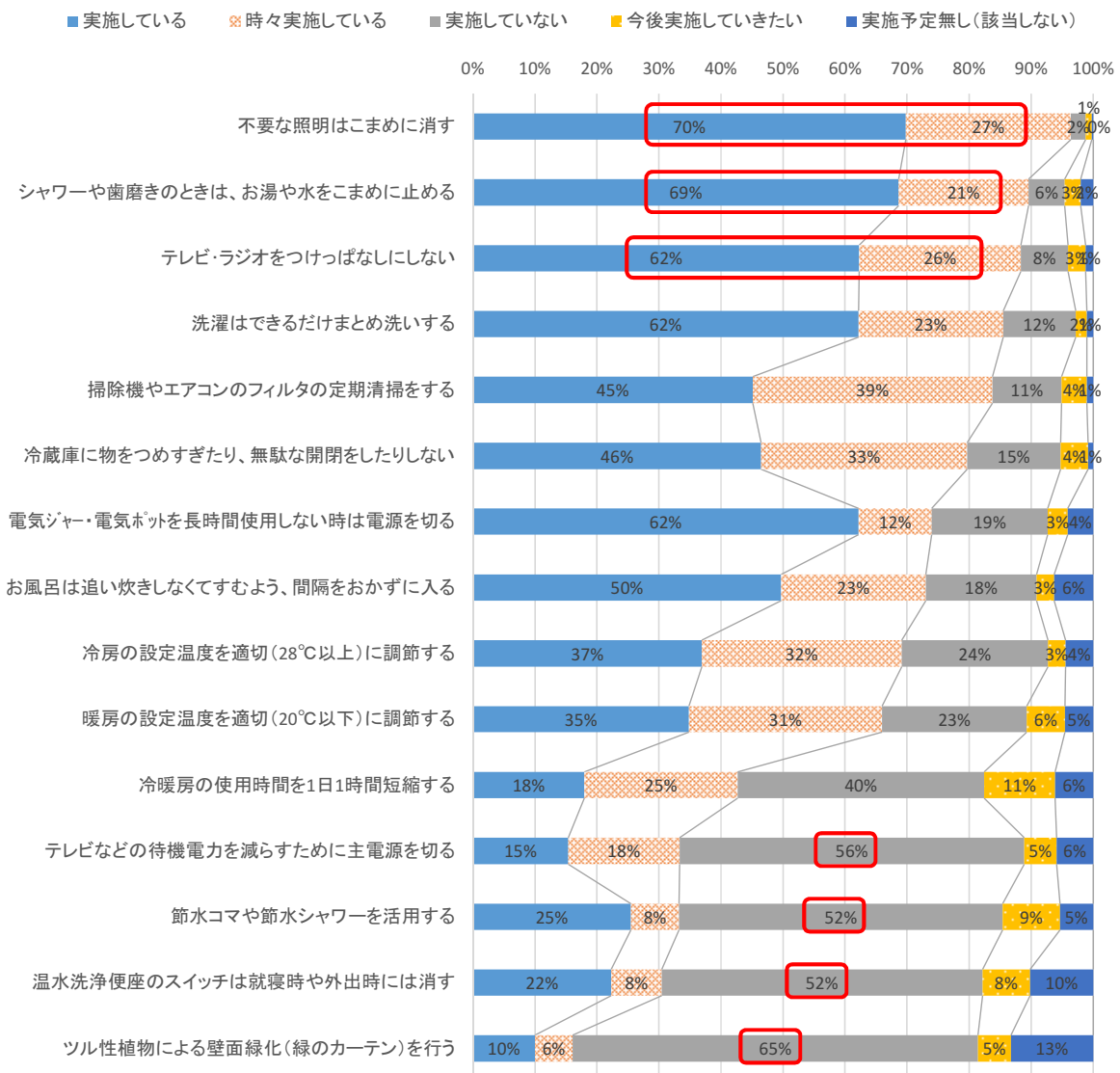
1-2-3 地球温暖化対策について

問11 日常生活の中で、地球温暖化防止に役立つ以下の取り組みをどのくらい実施していますか。それぞれの取り組みについて、状況に最も近い項目の数字に○を付けて下さい。

【有効回答 441 人～505 人、無回答・無効 8 人～72 人】

<省エネルギー対策の全体傾向>

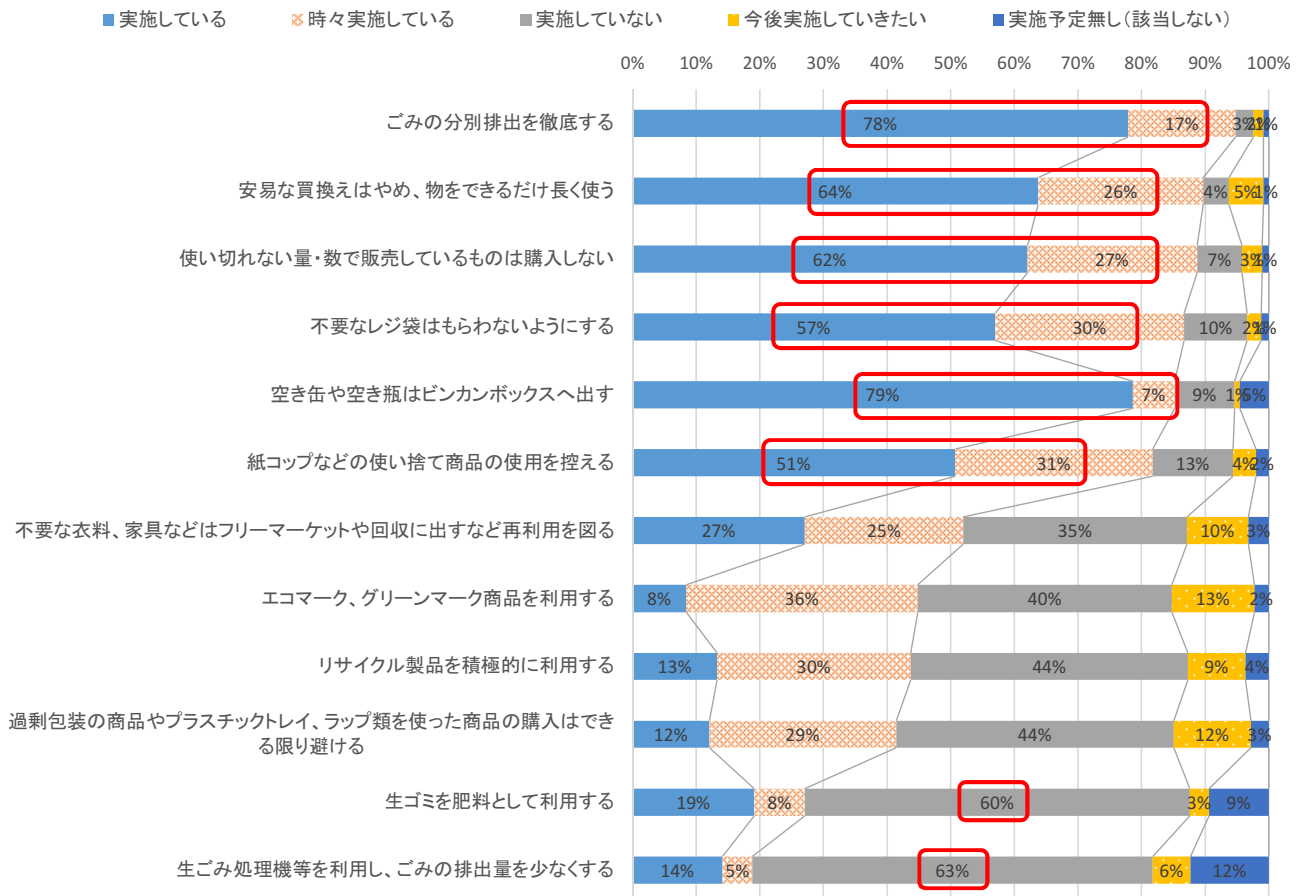
- 省エネルギー対策については「照明をこまめに消す」「お湯や水をこまめに止める」「テレビ・ラジオをつけっぱなしにしない」について約 90%が取り組んでおり、取り組みが浸透していることが伺えます。
 - 一方で「壁面緑化」「テレビなどの主電源を切る」「節水シャワー等の活用」「温水洗浄便座を消す」等のひと手間かかる取組については半数以上が実施していないと回答しています。
- ☆ 取組を行うことによるメリットの周知や、取組を行いやしくするための施策の検討が必要です。



＜ごみの減量化の全体傾向＞

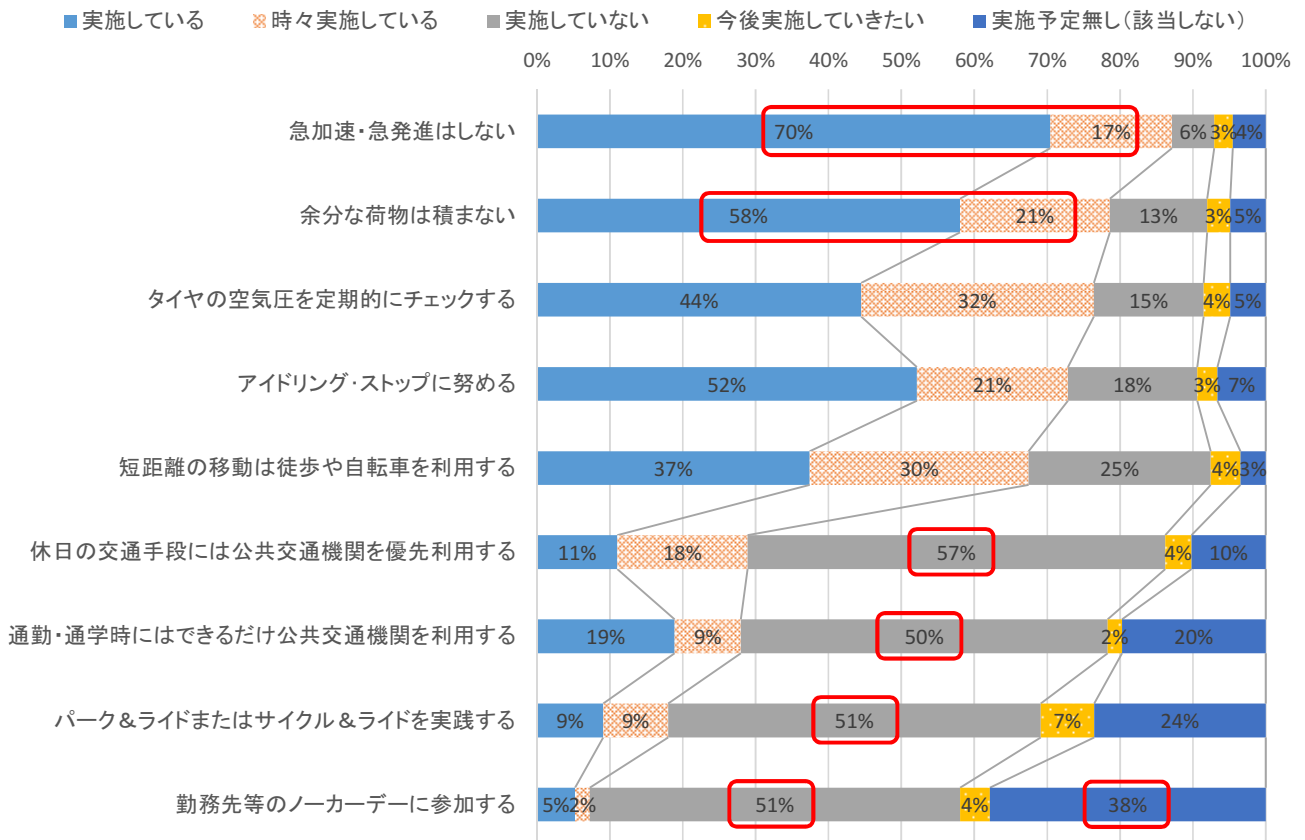
- ごみの減量化については、「ごみの分別の徹底」をはじめとし、手ごろに実践できる項目については80%以上が取り組んでいます。
- 一方で「生ごみ処理機等の利用」「生ごみを肥料として利用」については60%以上が実施していないと回答しています。

☆ 実施されていない取組について、阻害要因の追求と取組促進方策が必要です。



<効率的な自動車利用の全体傾向>

- 「急加速・急発進はしない」については 87%が、「余分な荷物は積まない」については 79%が実施しています。
 - 一方で「休日の交通手段に公共交通機関を優先利用」「パーク&ライド、サイクル&ライドの実践」等、自動車を利用しない取り組みについては半数以上が実施していないと回答しています。実施率が最も低かった「ノーカーデーへの参加」については実施予定がないと回答する人が 38%に上ります。
- ☆ ノーカーデーの普及や、公共交通の利便性向上、自動車を利用しない移動方法へのメリットの付与など、取組促進方策の検討が必要です。



問12 日常の取り組みを実施するうえで、障害を感じていることは何ですか。あてはまるもの全てに○を付けてください。

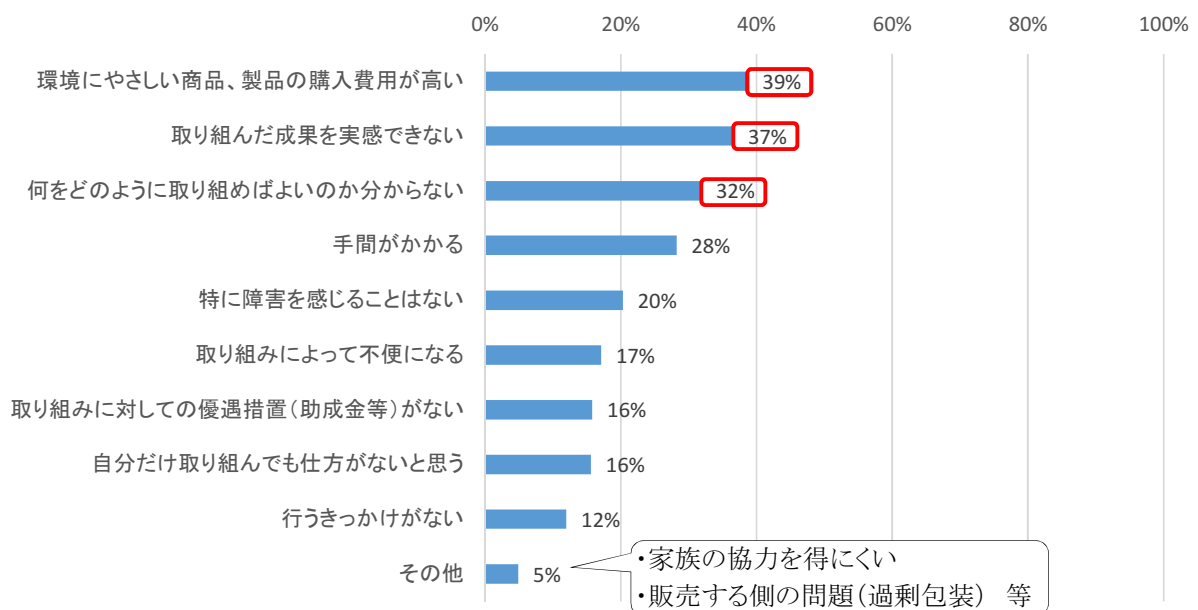
【有効回答 468 人、無回答・無効 45 人】

<全体傾向>

- 「環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い」ことを障害に感じている人が最も多く 39%となりました。また、「取り組んだ成果を実感できない」「何をどのように取り組めばよいのか分からない」人も 30%以上となりました。

☆ 取組の意義や取組方法のほか、取組によるメリット等の利益関心に繋がる情報提供が必要です。

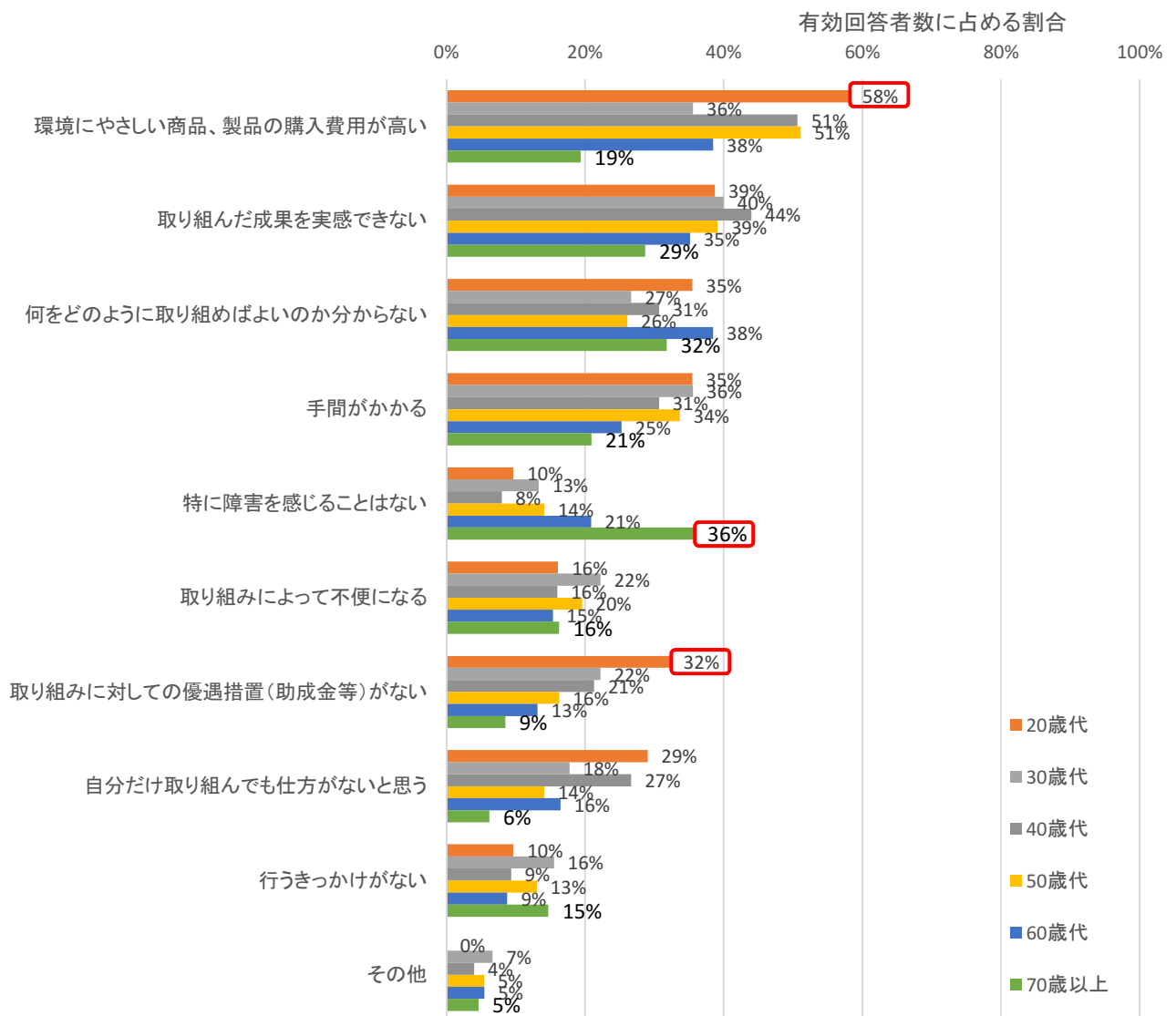
有効回答数に占める割合



<年代別傾向>

- 20歳代において「環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い」「取組に対しての優遇措置が無い」といった経済的な課題を感じる割合が多い結果となりました。
- また、他の年代に比べて70歳以上において「特に障害を感じることはない」と回答する人の割合が大きくなっています。

☆ 若い世代に向けて、ポイント制度などの対策が有効だと考えられます。



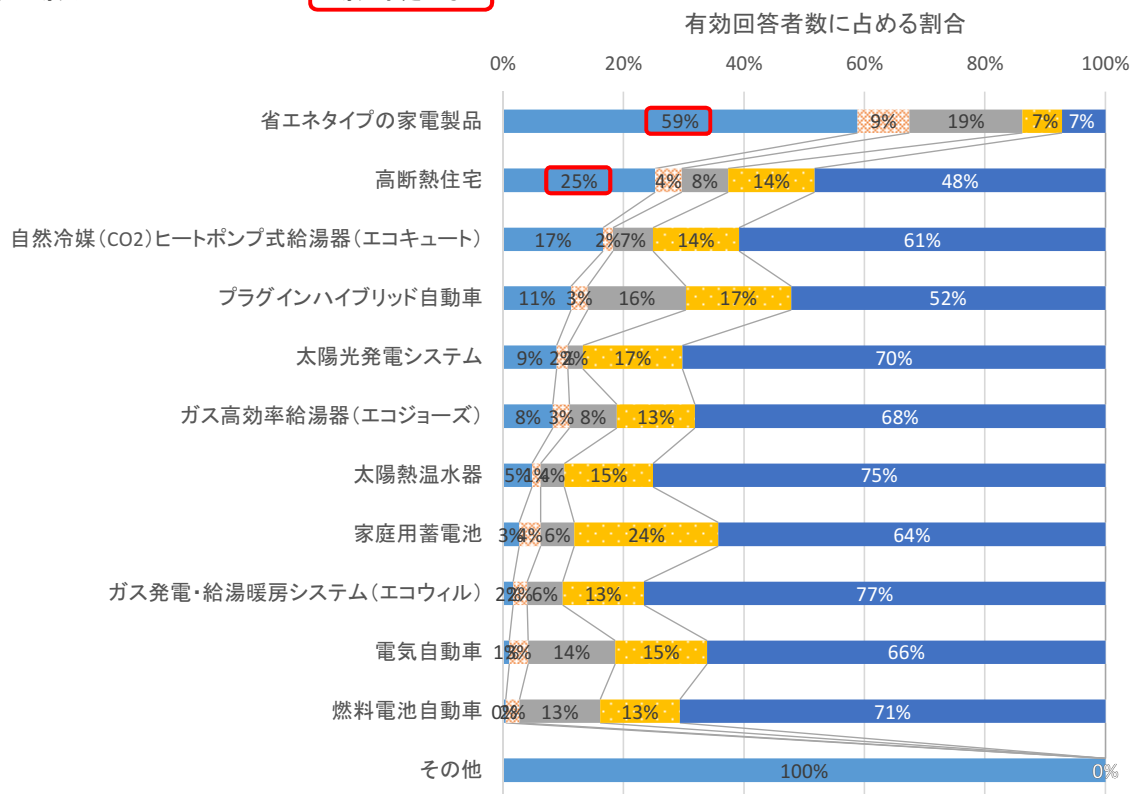
問13 以下の表に示した省エネルギー・新エネルギー設備の導入状況について、ご家庭の状況に最も近いものの数字に○を付けて下さい。

【有効回答 471 人～486 人、無回答・無効 27 人～42 人】

<全体傾向>

- 「省エネタイプの家電製品」については約 60%が、「高断熱住宅」については 25%がすでに導入されていますが、その他の機器については導入予定がないとの回答が半数以上となっています。
 - また、導入していない割合が高い製品については、助成があれば導入したいと考える割合が 10%以上となりました。
- ☆ 設備の用途や技術、効果について周知し、取組を促進する必要があります。また、導入促進のためには補助等の施策も有効であると考えられます。

- すでに導入(一部導入予定も含む)
- 価格が少し高くても今後導入したい
- 価格が従来品と同程度であれば導入したい
- 助成があれば導入したい
- 導入予定がない



その他

- ・生ごみを微生物で分解し電気を生み出すメタン発酵
- ・小型の風力発電
- 等

問14 ご家庭での自動車の使用状況についておたずねします。

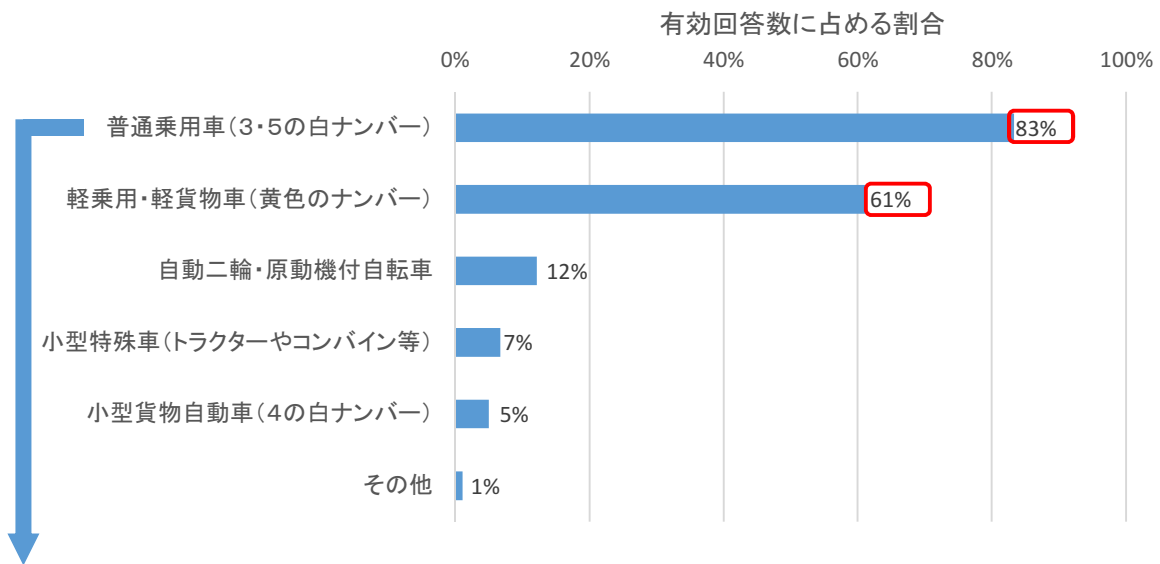
(1) ご家庭でお持ちの自動車についてあてはまるものすべての番号に○をつけて下さい。また、それぞれ所有台数をご記入ください。

【有効回答 461 人、無回答・無効 52 人】

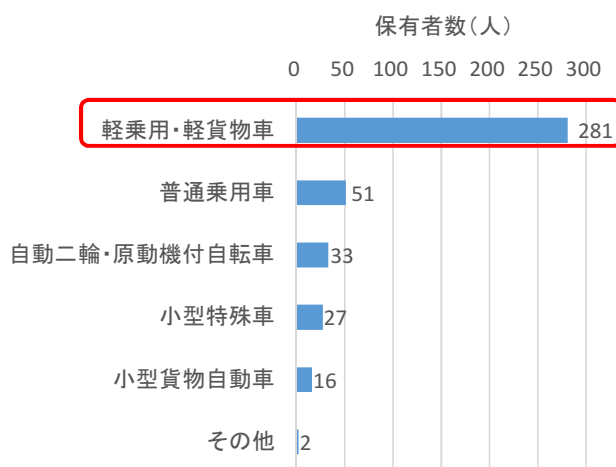
<全体傾向>

- 「普通乗用車」が占める割合が 83%となり、ついで「軽乗用・軽貨物車」が 61%となりました。
- 「普通乗用車」を所有している家庭の 2 台目の車種は、「軽乗用・軽貨物車」が最も多くなりました。
- また、乗用車の所有台数については、2 台持っている家庭の割合が最も多くなっています。

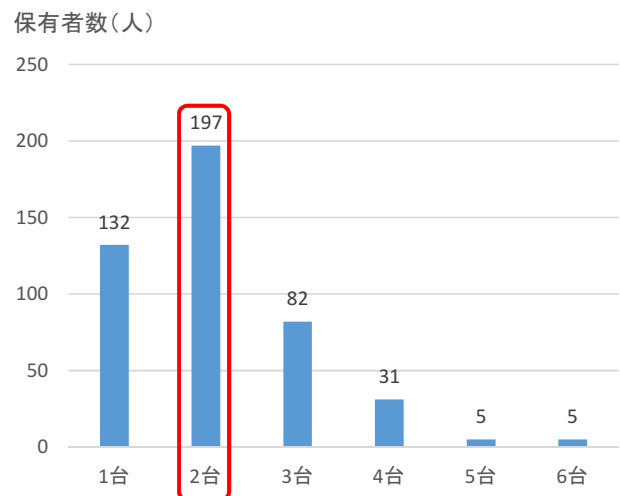
<家庭で保有している自動車>



<普通乗用車を所有している人の 2 台目の車種>



<乗用車 (普通+軽) の所有台数>



(2) お持ちの自動車について、主な使用方法を1つ選び番号に○を付けてください。またその使用方法での1か月あたりの概ねの使用日数をご記入いただき、走行距離の番号を○で囲んでください。なお、車を3台以上お持ちの場合には、使用頻度の高いものから2台までの状況についてご回答ください。

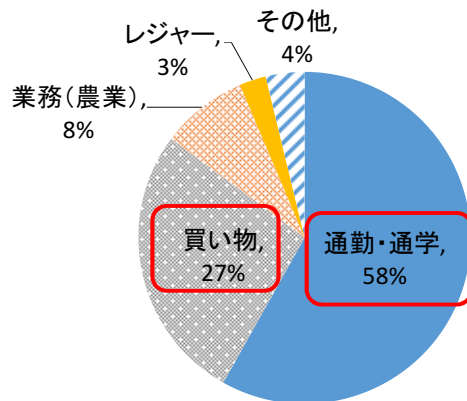
【1台目 有効回答 409人、無回答・無効 104人】

【2台目 有効回答 283人、無回答・無効 230人】

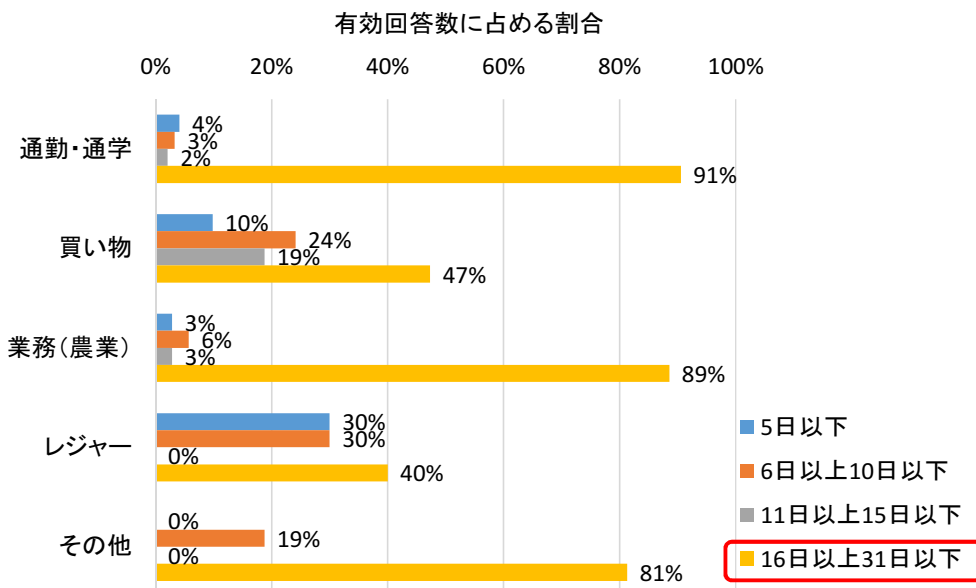
<1台目の傾向>

- 主な使用方法は「通勤・通学」で58%、次いで「買い物」で27%となりました。
 - 1か月あたりの概ねの使用日数については、すべての使用方法で「16日以上31日以下/月」が最も多くなり、多くの市民がほぼ毎日自動車を利用していることが伺えます。
 - 使用方法ごとの1日あたりの走行距離については、レジャー以外では20km以下が多くの割合を占めています。
- ☆ 特に「買い物」「業務」については半数以上が20km以下と回答しており、環境に優しい電気自動車等へ代替できる可能性があると考えられます。

<使用方法>

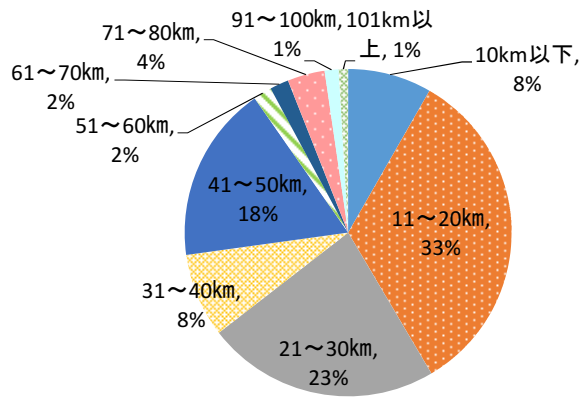


<使用方法ごとの1か月あたりの使用日数>

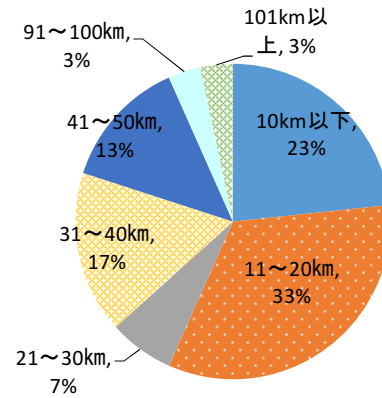


<使用方法ごとの1日あたりの走行距離>

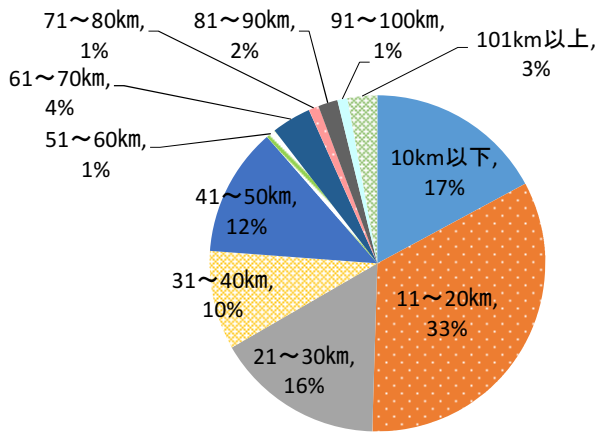
■通勤・通学



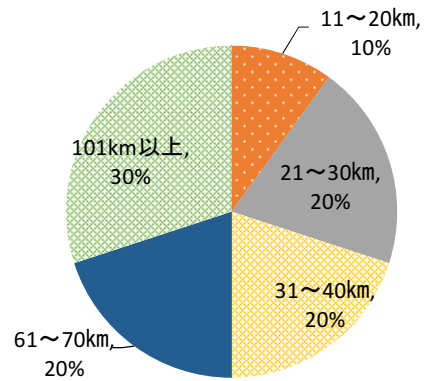
■買い物



■業務(農業)



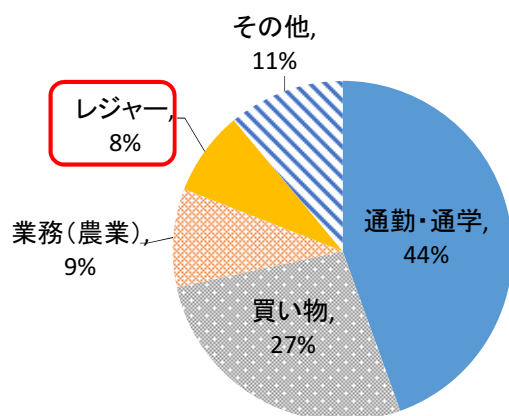
■レジャー



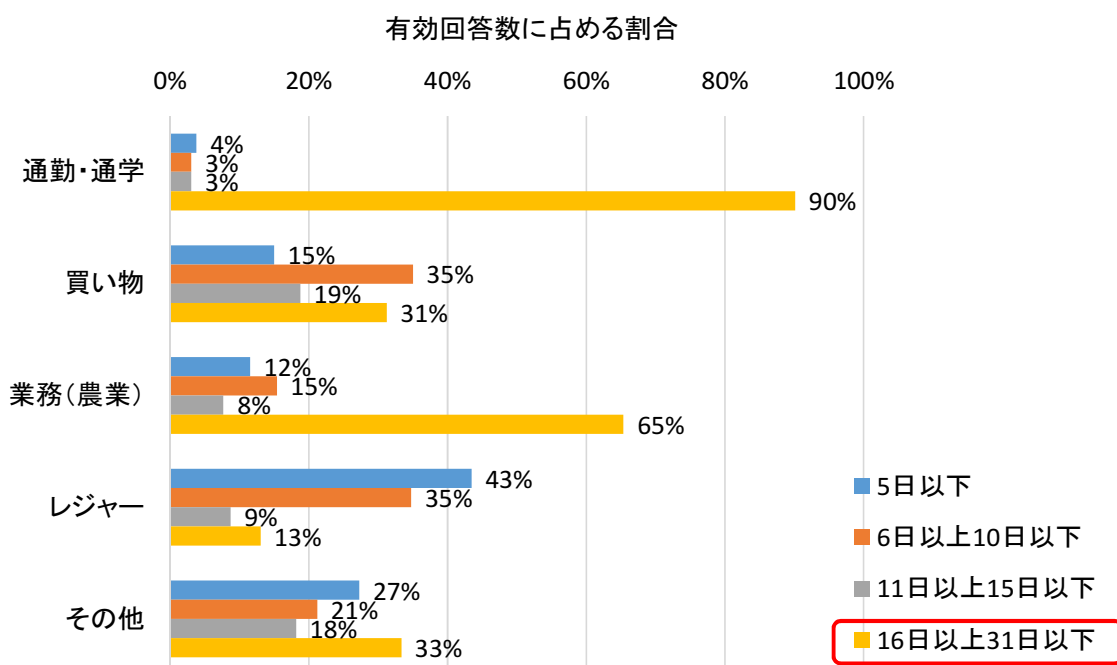
<2台目の傾向>

- 1台目と同様に「通勤・通学」「買い物」に利用する割合が大きい結果となりましたが、「レジャー」に利用する人の割合が増えています。
- 使用日数については全ての使用方法で1台目よりも少ない傾向となっています。
- 2台目の走行距離については1台目と比較して大きな変化はありませんでしたが、「通勤・通学」に利用する人の20km以下の割合の増加、「レジャー」に利用する人の100km以下の割合の増加がみられます。

<使用方法>

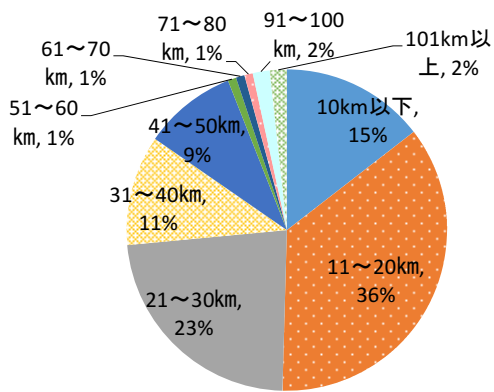


<使用方法ごとの1か月あたりの使用日数>

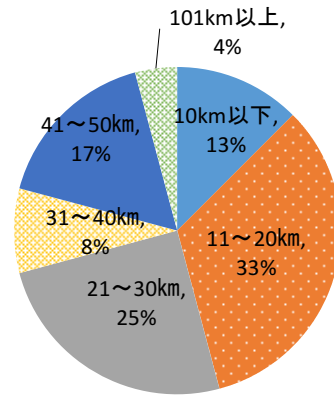


<使用方法ごとの1日あたりの走行距離>

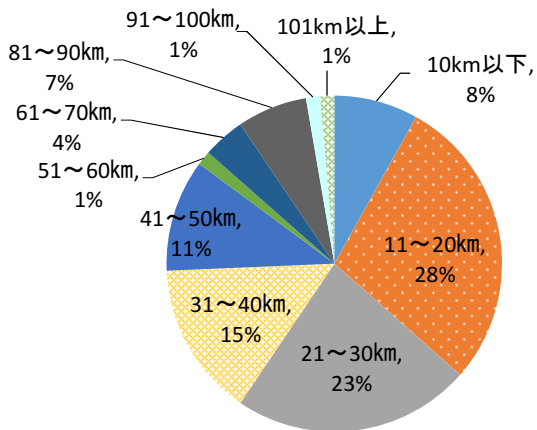
■通勤・通学



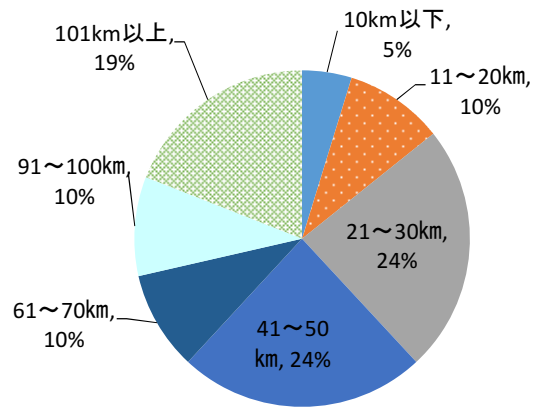
■買い物



■業務(農業)



■レジャー

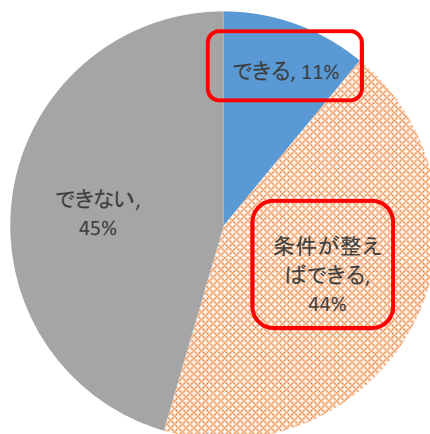


問15 将来あなた（もしくは車を利用するご家族の方）は自動車から公共交通機関へ切り替えることができますか？あなたの考えにもっとも近いものを1つ選び、○を付けてください。

【有効回答 471 人、無回答・無効 42 人】

<全体傾向>

- 「できる」「条件を整えばできる」と回答する人が 55%となり、半数以上を占めました。

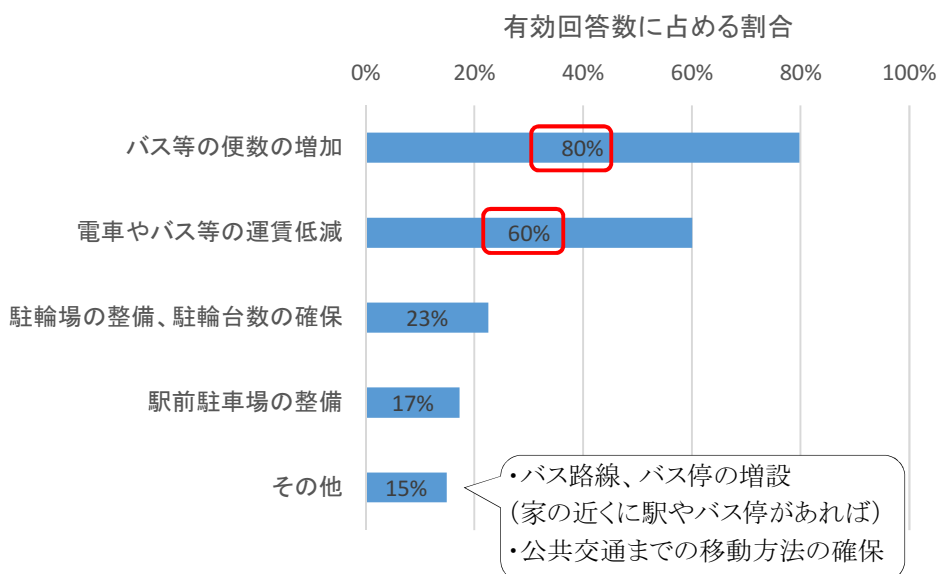


問16 問15 にて「2. 条件を整えばできる」と答えられた方におたずねします。その「条件」とは何でしょうか。あなたが望む条件を3つまで選び、番号に○を付けてください。

【有効回答 208 人、無回答・無効 305 人】

<全体傾向>

- 条件として、80%が「バス等の便数の増加」を、60%が「電車やバス等の運賃低減」を挙げており、公共交通の利便性向上を条件に挙げる人が多い結果となりました。

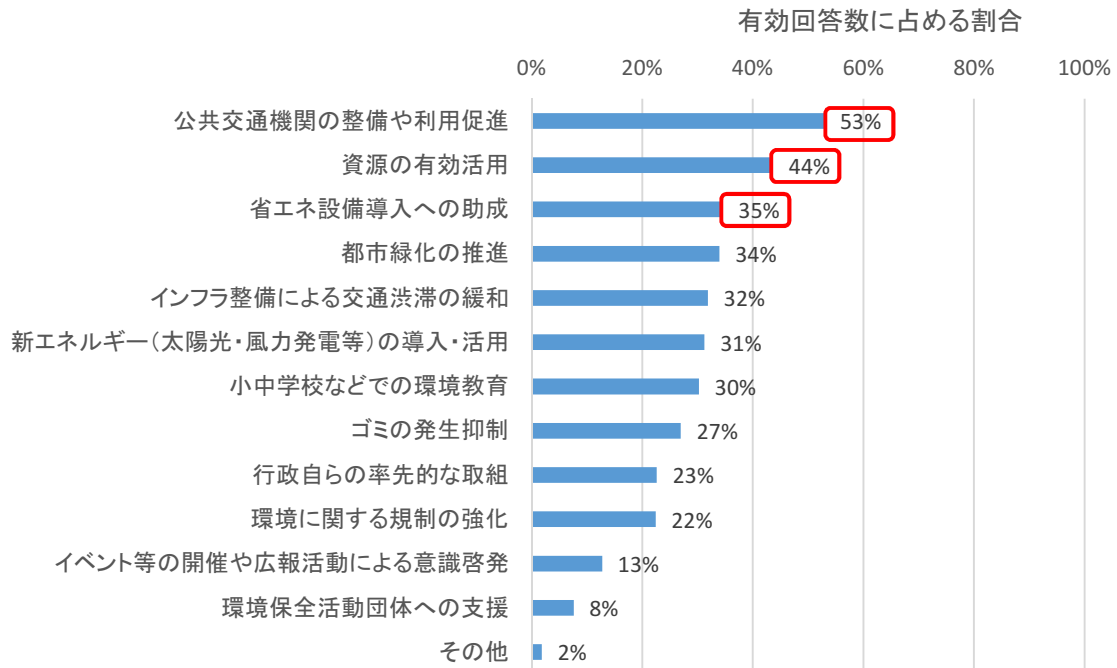


問17 地球温暖化防止に向けて、あなたが豊橋市に期待する対策は何ですか。あてはまるもの全てに○を付けてください。

【有効回答 486 人、無回答・無効 27 人】

<全体傾向>

- 「公共交通機関の整備や利用促進」が 53%で最も多くなりました。次いで「資源の有効活用」「省エネ設備導入への助成」と続いています。

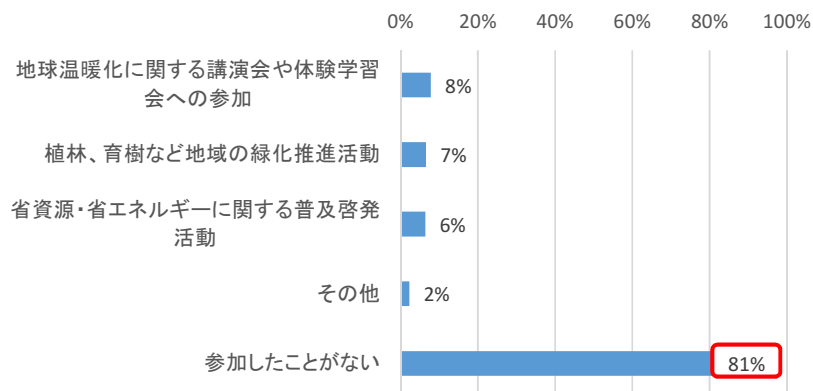


問18 地球温暖化を防止するため、あなたが参加したことがある地域での取り組みは何ですか。あてはまるもの全てに○を付けてください。

【有効回答 486 人、無回答・無効 27 人】

<全体傾向>

- 81%が「参加したことがない」と回答しています。



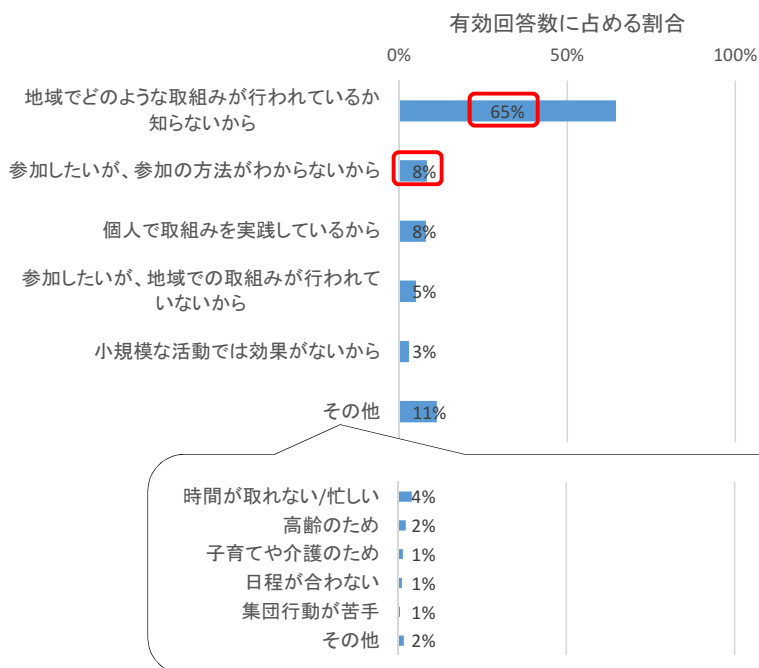
問19 問18で「5. 参加したことがない」と回答された方にお聞きします。参加しない理由は何ですか。あてはまるもの1つに○を付けて下さい。

【有効回答 375 人、無回答・無効 138 人】

<全体傾向>

- 「地域でどのような取り組みが行われているか知らない」が65%で最も多くなっています。次いで、多い理由として「参加の方法が分からない」が挙がっています。

☆ 地球温暖化を防止するための地域の取り組みの周知方法を検討する必要があります。



1-2-4 みなさまのご意見について

問 20 地球温暖化防止につながる何らかの取り組みを実施された方にお聞きします。あなたが実施している取り組みの内容とその効果、または感想をご記入下さい。（どんな小さな取り組みでも結構です。）

方針	意見
エネルギーを賢く使おう	<p>【節電、節水】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 節電により光熱費が以前より下がっているのが分かり、効果を実感している。 ・ 電気やテレビはこまめに消す。なれば苦痛もなく普通にくらせる。 ・ 節水・節電。 ・ 照明をこまめに消す。エアコンをなるべく使わない。 ・ お風呂を間隔あけずに入ったり、節水を心掛けたことによって水道代もへったりしたのでよかった。 ・ 風呂の水の使用量を以前より減らした。 ・ ムダに電力を使わないようにしているが、効果があるのかわからないため何となく行っているだけ。 ・ ムダな電気（照明・冷暖房等）は使わない。効果はわからない。停電しても耐えうる暮らしができることを考えたりもする。節電・節水は身についている。 ・ 節電、自動車等少しは取組んでいるが今一、実感がわからない。 ・ 日常生活で光熱費の使用は気を付けているが今夏の気温では控える事ができなかった。 <p>【空調】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏の夕刻、庭に水をまいたり、すだれやシェードをかけて部屋の温度を下げ、エアコンの設定温度を上げる。 ・ 朝顔の日よけを作成した。部屋が涼しくなり、エアコンの使用時間が減ったと思う。 ・ 夏は節電のために窓辺にゴーヤを植えてグリーンカーテンにする。 ・ 夏はよしずを利用し風通しを良くしてエアコン使用を最小限にしている。扇風機の効率利用。冬は太陽光を室内へ取り入れ省エネにつとめている。 ・ 窓に厚手のカーテンを使用し、サンシェードカーテンを使う。部屋の温度が上らないと感じる。 ・ クーラー・暖房はなるべく一箇所を使うようにする。効果については実感が無いが、家族単位でも皆さんが意識して少しずつでも取り組めば変わってくるのかなと思う。 ・ 日中は一部屋のみ冷暖房を使用して家族が集まって過ごす。 ・ 冷暖房使うときは、家族が同じ場所にいるとき、1人の時はアイスノンや湯たんぽで生活する。 ・ 太陽光で蓄電するランタンを使用、廊下などはなるべく電灯をやめて蓄電ランタンを利用。シャワーの温度は下げ、追い炊きはなるべくしない。湯たんぽのサイズは小さくする。老人以外は靴下をはいて眠り、電気毛布やカイロは使わない。 ・ 冷暖房を適正温度に設定し電力を節約する、給湯器のスイッチを切ることで二酸化炭素の排出の削減に少しは役立っていると思う。 ・ 打ち水をして気温を下げる。
建物の省エネ化	<ul style="list-style-type: none"> ・ オール家電。 ・ LED 照明電球の導入。 ・ 高断熱住宅。 ・ 高性能住宅の販売に携わっているが、設備、見た目、安さで性能の低いものがまだ多い。全体的に性能が上がればと思う。 ・ 風通しの良い家を建てたおかげで、エアコンの温度を高く設定しても

方針		意見
		<p>生活できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2削減冷蔵庫へ買い替え、白熱灯のLEDと蛍光灯への取り換え、太陽熱温水器の導入。 ・今住んでいる家はソーラーシステムで、屋根裏にたまった空気を床にためて冬は暖かく、夏は空気の換気をうながし、太陽の熱を利用しお湯とりをし、風呂、台所に使用している。
新しいエネルギーを生み出そう	再生可能エネルギーの普及	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電や蓄電池等の導入、ハイブリット車の利用を行っているが、温暖化防止に役立っている実感がない。また、費用がかかる。 ・太陽光発電システムを利用し、電力量をおさえることで、少しでも防止に効果があったと思う。 ・10年前にソーラー、エコキュートにかえた。蓄電池を考えてはいるが、10年たっても費用が変わらない為現在考え中。(売電価格もほぼたくなってしまったため) また、ちょうど子供が大学などでお金がかかる時期なので、優先順位を考えると、後回しになってしまう。 ・太陽光発電、ソーラーシステムの設置は、初期投資は必要だが、電気代、ガス代が減ってお得感もあり効果が目に見えるのが良い。 ・火力発電にたよる部分もある電力の現状から、少しでも自然エネルギーで協力しようという気持ちから太陽光パネルを設置した。
地球にやさしい乗り物を使う	自動車を賢く使うライフスタイル	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り物に乗らずになるべく徒歩で移動する。 ・会社職場へ徒歩で通勤する日を作る。 ・通勤を夏の暑い日や雨の日以外は自転車を使用。ガソリン代の節約、自身の健康増進に繋がり悪いことがない。 ・近くに出かけるときには自転車を利用。健康増進にいい。通勤には月に半分以上自転車で行っている。ガソリン使用量が減りエコだと思う。 ・車をできるだけ使わずに自転車に出かけるようにしているが、自転車で走るのには怖い道が多すぎるため、自転車が安全に走れる道路になってほしい。駐輪場も少なかったり不便だったりする。 ・自動車使用しない。病院、買い物。すべて自転車。 ・通勤時の公共交通機関の利用。 ・駅へは市電で行っている。本数も多いので便利。 ・車1台の通勤をバスに変更した。 ・自家用車は燃費重視で選ぶ。 ・自家用車のPHEVへ切替。 ・電動自転車を購入し、できる限り車での移動をひかえている。車移動の主人にも休日にはできるだけ自転車で行動するように声かけをしている。 ・ハイブリットカーのエコ運転。ガソリン代に反映されるのでわかりやすい。 ・ハイブリッド乗用車はガソリンの減りが少ない。電気自動車、燃料電池車など安く手に入るようになると良いと思う。 ・ハイブリット車に乗っているがハイブリット車を作るために自然破壊をしている、希少物質を採取するために悪影響を受けている現地の人々がいる、と聞いた。自分のこと、目先のことだけではなく地球全体にとって良いことをするべき。 ・まとめ買い。スケジュールに合わせて車を使う。 ・駐車場など停車中はエンジンを切る。 ・一人で遠くまで移動する時はバイクを使う。 ・自動車の小形化。 ・買い物をする際に、通り道にある店を使う。わざわざ遠くの店に行かない。なるべくガソリンを使わず時短にもなる。
緑や資源を大切にしよう	森林や農地を保全し、都市の緑化を充実	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年毎朝ゴーヤを育てる。 ・庭木・1ヘクタールにいくらかの補助金を出して緑化を促す。 ・庭に木を植えた。夏は涼しげでいい。 ・私の家は山に近く、家の周りにも木が多い。アスファルトに囲まれているところと比べると涼しく感じる。冬も強い風を和らいでくれる。 ・会社・一戸建てを緑にする。 ・ビオトープ作り、生態系保全活動、効果はまだわからない、地道な活

方針	意見
	<p>動で成果は少しずつしか出ないかもしれないが続けることが大切。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会シニアクラブでの朝倉川緑化活動。 ・植林。 ・朝倉川の清掃、公園の草とり。 ・緑の多いきれいな公園があつてうれしい。
<p>ごみ減量 やリサイ クルを進 める</p>	<p>【レジ袋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物ではできるだけレジ袋をもらわない。 ・買い物の時ビニール袋はもらわず、持参した入れ物に入れてもらう（スーパーの魚売り場でも対応してくれる）。 ・レジ袋不要の買い物。 ・もっと提供している側の努力や取り組みが必要。行政からの規制を強く望む。 ・スーパーでエコバッグを使っている人を見てかっこいいと思い、自分も始めました。 ・一昔前に比べて、紙、プラスチックレジ袋の利用度は全体的に減っていると思います。 <p>【ごみの減量】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみを少しでも減量したいがプラスチックトレイやラップを使った商品が多く、ごみが減らない。 ・家具、家電、衣服などは長く使えるものを選び、ごみの減量に取り組んでいる。 ・芯なしトイレットペーパー。 ・実効性が乏しいが、なるべくごみを出さない。 ・再利用できるものは処分せずに再利用に努める。 ・台所ごみは堆肥にする。 ・ものをやたらに買わない、ものを増やさない。 ・食品を使いきる。 ・ゴミの発生抑制など資源になるゴミは有効活用に回す。 ・市の啓発のチラシ等により、雑ガミが以前より多くなり、燃やすごみが減少したことは、ささやかな取組の成果と感じる。 ・プラスチック・フォークはなるべくもらわない。 ・燃えるゴミをみじん切りにしてゴミ袋を節約および温暖化防止の目的で大きい袋で年に私（夫）1人で年に1袋を入らなくなるまで詰め込んで出すように努力している。 ・物を大切に使う、ひとつの物を使い続けられれば、ひいてはムダを省きごみを減らす事になると思った。 ・生ゴミ処理機の導入、効果はごみの減量処理後は肥料になる。 ・エコラップ使用 <p>【ごみの分別】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみカレンダーに従ってごみを種類別に分けて出す。 ・新聞紙・本・段ボールなど指定のところへ持って行っている。 ・不用品はリサイクルに出す。 ・ごみの分別とリサイクル。多少時間はかかりますが、一人一人がコツコツと行うことが子供や地域、社会の雰囲気づくりになると思う。 ・リサイクルショップの利用。 ・フリマアプリの利用。 ・リサイクルポイントカードの利用。古紙とか、アルミ缶、ペットボトルリサイクル用機械で処理している。 ・ゴミの分別とかが徐々に変わっていくのは、年配者にはストレス。シニア向けの広報ダイジェスト版等があると嬉しい。 ・古紙は地域資源回収などを利用している。 ・ゴミの分別・削減は面倒だからとくみやすい。 ・生ゴミ処理機は手間と金がかかる。不便。

方針	意見
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化の一つとして土中にいる微生物の減少が原因だと思う。地球がバランスをとるために異常気象を起こしていると思うので土中の微生物と共存する生活をしている。 ・少しずつ取り組んでいくことを心掛けたい。 ・二酸化炭素排出削減を一人一人が考えてみんなで協力することが大切だと思う。 ・昭和の時代の生活。 ・職場での環境推進取組。 ・むずかしくて分からない。 ・今後も継続して身近なことから地球温暖化防止につながる取り組みを行っていきたいと思う。 ・どんなことでも個人での取り組みが必要だが、効果がみえない。 ・ペットボトルの飲料や調味料は可能な限り買わない。合成洗剤を使わず、自然にかえるものや、マグネシウムを使い、洗たくなどしている。シャンプーなどはボトル入りの液体シャンプーボディシャンプーなどはやめ、固形の石けんを使用している。

問 21 地球温暖化防止対策に関して、市への要望等があればご記入願います。

方針		意見
エネルギーを賢く使おう	節電・省エネを実践	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達の校舎をすずしくして欲しい。 ・スーパーの冷凍庫は扉がなくなり、オープンな状態で、買い物はしやすいが、ものすごく電気を使っているといつも思う。市から助言して欲しい。
	建物の省エネ化	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道、舗道の整備をして段差をなくす。歩きやすい道、自転車専用通路を作る。アスファルトから道路の温度の上昇しない材質にする。
新しいエネルギーを生み出そう	再生可能エネルギーの普及	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電パネルを設置しているが、蓄電池が高くて買えないでいる。蓄電池の補助をお願いしたい。 ・太陽光発電の助成金、売電を多くしてほしい・太陽光や車のハイブリット車の購入が高すぎて手が出ないことがある。 ・太陽熱温水器、蓄電池の助成をしてほしい。
地球にやさしい乗り物を使おう	自動車を賢く使うライフスタイル	<p>【公共交通について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が家は市街化調整区域にあり、公共交通機関の利用には大変不便。周辺部にも目を向けて温暖化防止に取り組んでほしい。 ・公共交通路線の充実。 ・市電等の路線の拡充を考えてほしい。 ・物流網を整備し、物流効率を向上させることにより、商業車両と適正運用し、排気ガスの削減を行う。 ・公用車の使用を控える。 ・バスの路線・本数が少なすぎて不便で車を使うしかないと思う。 ・買い物など荷物が多く車でないと運ぶことができない。 ・インフラの整備をしてもらえれば、渋滞がなくなって温暖化と交通事故防止につながると思う。 ・地域のコミュニティバスの運行時間を増やすよう、市で助成してほしい。 ・足が悪く歩行には歩行器利用が必要。坂路が多く道が狭いととても怖いのでバス停へ行けない。 <p>【インフラ整備について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車利用の増加のための道路整備。 ・競輪場電停前にも駐輪場をつくってほしい。
緑や資源を大切にしよう	森林や農地を保全し、都市の緑化を充実	<ul style="list-style-type: none"> ・屋上緑化、壁面緑化などの緑化が増えるといいと思う。駐車場も少しは地面を残したままでもいいのではないかな。 ・緑を増やしてほしい。 ・緑をふやす、その整備、それに携わる人の教育支援。 ・住宅地域において樹木が道路に出ていて見通しが悪い為に、渋滞して排気ガスによる温暖化につながっている。 ・駅前のロータリーの日々草の管理。 ・田畑へ捨てられたごみへの対策。
	ごみ減量やリサイクルを進める	<ul style="list-style-type: none"> ・牛乳パックなどは販売しているところで回収して欲しい。 ・町内のごみの収集・分別が甘いと思う。もっと厳しくしてほしい。 ・ペットボトルや新聞などのポイント還元など、家計にプラスになるような制度があれば積極的に取り組めると思う。 ・生ゴミのカゴが破損しそうなので、定期的にかゴの配慮してほしい。 ・プラスチックトレイを紙製にすれば海のゴミが少なくなる。

方針	意見
地球環境への理解を進めよう	<p>地球温暖化についての意識を高める</p> <p>【市民への情報提供について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化の原因の根拠を詳細に知らせてほしい。知識不足に対する具体的な科学的な立証。 ・地球温暖化防止につながる講演会を開いてほしい。 ・小グループ単位での温暖化防止教室の開催。 ・市の地球温暖化防止対策の取り組みを市民にもっと知らせてほしい。多少不便になっても温暖化防止に協力したいと思う。 ・「地球温暖化防止対策推進都市宣言」など公に市として行政でできることをアピール・実行してほしい。市民に様々な対策の提案をしてほしい。 ・個人でできる温暖化対策をもっと教えてほしい。 ・資源の有効活用を市民に言ってほしい。 ・各家庭でどんな対策があり、やるべきか知らせてほしい。 ・個人ができる防止に有効な事を具体的にわかりやすく教えてほしい。 ・何をすれば対策につながるか、一人一人が個人でできる簡単な方法を、大型スーパーなどの目につく所にポスターをはって欲しい。 ・補助金など得をするようなものであればみんな自然と行うのではないか。 ・町内のリサイクル率・温暖化貢献ポイントなどの効果を教えて欲しい。 ・地域での取り組みをもっと取り上げてほしい。個人でできるアイデアを紹介してほしい。市が率先して取り組み、その成果を発信してほしい。 ・省資源、省エネルギーに関する普及啓発活動を校区単位で行ってはどうか。 ・職場や企業に情報、取組等啓発。 ・地域の取組がわかれば色々と参加したい。 ・市内の温度変化・動植物の生態変化などが知りたい。 ・より多くの人に意識を持ってもらうために広報に温暖化防止の記事を載せる。 ・国、県、企業の補助金情報。 ・東三河地方の今昔の降雨量の対比がグラフなどで可視化し、広報とよはし等で知らされると温暖化の意識につながると思う。 <p>【行政の取組について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の取り組み等を広報などで紹介してほしい。 ・市の率先した取り組みをアピールして市長にもっと啓発してほしい。 ・市公共工事へ温暖化防止の新しい工法を取り入れ、それをニュースにあげて、地域社会の関心を向上させる。 <p>【環境教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供への教育が大切。子供から家庭へと意識を高めていくといいのでは。 ・孫やその子供達の為に興味を持ってもらえる様な教育を行って欲しい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・台風の対策について早急に都道府県と国とでの協議が必要ではないか。 ・お互いの努力にもかかわらず、50年に1度と報じられるような災害が起こっている。 ・市職員が積極的に前に出て、リーダーシップを発揮すべき。 ・BRICs、特に中国に対し温暖化防止・環境破壊・化石燃料使用の差し止め等を「市」として名指しで発信してほしい。 ・アンケートよりもメディアを使ったアピールを積極的にして、市民の意識を高める事が先ずは必要だと思う。 ・堤防の補強点検などしっかりやってほしい。 ・いきなり家庭レベルへの支援は難しいと思うのでまずは公共施設とか企業とかへ支援はたらきかけて防止に努めてほしい。 ・姉妹都市で有るトリード市と地球温暖化について連携。

1-3 意識調査結果のまとめ

(1) 地球温暖化に対する意識について

1) 地球温暖化への関心について [P.4~5]

- 地球温暖化に対して「かなり関心がある」「少し関心がある」と考える市民が 90%を占め、多くの市民が地球温暖化に対して関心を持っていることが伺えます。
- 年代別に見ると、20 歳代、30 歳代は関心が無いと回答した割合が比較的多い結果となりました。
- ☆ 若い世代に関心を喚起する取組が必要です。

2) 地球温暖化に関する情報について [P.6~7]

- 地球温暖化に関する情報を主に「テレビ・ラジオ」から得ている人が最も多く、92%を占めています。年代別では、若い世代ほど「インターネット」から情報を得ていることがわかります。
- 地球温暖化対策をさらに積極的に進めるためにあるといい情報については「生活に及ぼす影響」が最も多く、次いで「地球温暖化の現状」「地球温暖化の原因」となっています。
- ☆ 地球温暖化に関する基礎的な知識のほか、自分自身の生活への影響について理解を促すことで取組促進につながると考えられます。

3) 地球温暖化の現状について感じる事/地球温暖化防止に対する考え [P.8~11]

- 住んでいる地域で地球温暖化が進んでいると「感じる」割合が最も多く、そのうち「猛暑日や熱帯夜が増えた」「異常な天候が多くなった」と感じている人が 80%以上となりました。
- 地球温暖化の影響で最も不安に感じることは、「異常気象による干ばつや大洪水などの災害」や「台風・豪雨や高潮被害の増大」となり、市民の生活に大きな影響のある事象に関して特に不安が大きいと考えられます。
- 地球温暖化防止対策と生活内容との関係について、「現在の利便性や効率性を維持しつつ対策を行うべき」との回答が 45%となりましたが、地球温暖化対策に積極的な市民も約5割を占めており、拮抗しています。
- 地球温暖化防止行動に対する考え方について、「自分にできる身近なことから行動する」と回答した割合が最も大きく 75%となり、地球温暖化防止に向けて市民の多くが積極的な姿勢を示しています。

(2) 地球温暖化対策について

1) 地球温暖化に対する取組の実施について [P.12~14]

- 省エネルギー対策については「照明をこまめに消す」「お湯や水をこまめに止める」等について約90%が取り組んでいます。一方で、ひと手間かかる取組については半数以上が実施していないと回答しています。
- ごみの減量化については、「ごみの分別の徹底」をはじめとし、手ごろに実践できる項目については80%以上が取り組んでいます。
- 効率的な自動車利用については、「休日の交通手段に公共交通機関を優先利用」「パーク&ライド、サイクル&ライドの実践」等、自動車を利用しない取組については半数以上が実施していないと回答しています。
- ☆ 取組を行うことによるメリットの周知や、取組を行いやすくするための施策の検討が必要です。
- ☆ ノーカーデーの普及や、公共交通の利便性向上、自動車を利用しない移動方法へのメリットの付与など、交通部局と連携を図った上での取組促進方策の検討が必要です。

2) 日常の取組を実施するうえで障害に感じていることについて [P.15~16]

- 「環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い」ことを障害に感じている人が最も多く39%となりました。また、「取り組んだ成果を実感できない」「何をどのように取り組めばよいのか分からない」人も30%以上となりました。
- 年代別には、20歳代において経済的な課題を感じる割合が多くなっています。
- ☆ 取組の意義や取組方法のほか、取組によるメリット等の利益関心に繋がる情報提供が必要です。
- ☆ 若い世代に向けて、ポイント制度などの対策が有効だと考えられます。

3) 省エネルギー・新エネルギー設備の導入状況について [P.17]

- 「省エネタイプの家電製品」については約60%が、「高断熱住宅」については25%がすでに導入されていますが、その他の機器については導入予定がないとの回答が半数以上となっています。
- 導入していない割合が高い製品は、助成があれば導入したいと考える割合が10%以上となりました。
- ☆ 設備の用途や技術、効果について周知し、取組を促進する必要があります。また、導入促進のためには補助等の施策も有効であると考えられます。

【施策反映の方向性】

1. 市民の地球温暖化防止の取組における障害を踏まえ、各世代の情報収集手段に則した取組方法の発信やメリットの周知による取組促進を検討します。
2. 対策に取り組むことによる日常生活への付加価値について情報提供することでインセンティブを付与し、取組促進を図ります。
3. 地球温暖化に関心のある、積極的な市民の自主的な行動を促進する方策を検討します。
4. 家庭へのエネルギー設備等導入促進において、現行の補助金制度の見直しのほか、製品・技術に対する理解促進策を検討します。

4) 自動車の使用状況について/市に期待する対策について [P.18~23]

- ご家庭でお持ちの自動車について、「普通乗用車」が占める割合が 83%となり、ついで「軽乗用・軽貨物車」が 61%となりました。また、乗用車の所有台数については、2台持っている家庭の割合が最も多くなっています。
 - 主な使用法は「通勤・通学」で 58%、次いで「買い物」で 27%となり、すべての使用方法で多くの市民がほぼ毎日自動車を利用している結果となりました。
 - 1日あたりの走行距離については、レジャー以外の使用方法で20km以下が多くの割合を占めています。
 - 自動車から公共交通機関への切り替えについて、「できる」「条件を整えばできる」と回答する人が 55%となり、半数以上を占めました。「条件を整えばできる」と回答した方の条件として、80%が「バス等の便数の増加」を、60%が「電車やバス等の運賃低減」を挙げており、公共交通の利便性向上を条件に挙げる人が多い結果となりました。
- ☆ 環境に優しい電気自動車等へ代替できる可能性があると考えられます。

【施策反映の方向性】

1. マイカーの1日あたりの走行距離が短いことを踏まえ、電気自動車のマイナスイメージの払しょくなど、環境に優しい自動車等への代替促進施策を検討します。
2. 自動車に依存しない交通体系に向けて、多様な公共交通機関を有する本市の特性を活かした公共交通機関の利便性向上などが必要と考えられます。

5) 市に期待する対策について [P.24]

- 市に期待する対策について、「公共交通機関の整備や利用促進」が 53%で最も多くなりました。次いで「資源の有効活用」「省エネ設備導入への助成」と続いています。

6) 地球温暖化対策における地域での取組への参加について [P.25]

- 81%が「参加したことがない」と回答しています。
- 参加しない理由として、「地域でどのような取り組みが行われているか知らない」が 65%で最も多く、次いで「参加の方法が分からない」が挙がっています。

☆ 地球温暖化を防止するための地域の取り組みの周知方法を検討する必要があるがあります。

【施策反映の方向性】

1. 豊橋市の特性を踏まえ、「豊橋市地産地消エネルギー指針」に基づいて“つくる・つなぐ・つかう”に着目し、豊橋市の特性を活かしたRE100に向けた取組について検討します。
2. 地域の地球温暖化対策の取組に関する情報を市民の入手しやすい媒体で提供し、より多くの市民が障害を感じずに地球温暖化対策に取組める土壌を形成します。